

今と昔をつなぐ豊平の道

豊平区には、さまざまな変遷を経て現在に至る道があります。今月は区内の主な道の歴史をたどってみたいと思います。

国道36号

国道36号は豊平区内を北西から南東に走る交通の大動脈です。安政四（一八五七）年、当時の箱館奉行が、銭箱（現在の小樽市銭函）から札幌を経て千歳までの区間、道路の開削工事に着手したのが始まりとされています。開通した道路は、「札幌越新道」と呼ばれていました。

その後、開拓使は、開拓指導のために招いたアメリカ人・ケプロンの構想に基づく提案を受け入れ、函館から室蘭を経て札幌に至るまでの道路を造ることを決めました。工事は、明治五（一八七二）年に始められ、明治六（一八七三）年に完成しました。この道路は「札幌本道」と呼ばれ、亀田村から森町、森町から航路で室蘭に渡海、室蘭から鷺別・千歳を経て札幌に至る日本初の長距離馬車道です。このうち室蘭から札幌までの区間は「室蘭街道」とも呼ばれました。「国道36号」として開通し

たのは、今から五十一年前の昭和二十八（一九五三）年のことです。特に札幌―千歳間は、わずか一年余りの突貫工事では初の本格的なアスファルト舗装道路となりました。この区間の道路は「弾丸道路」と呼ばれました。その由来ですが、弾丸のようにスピードが出せるからだとか、急ピッチで工事が進められたからだとか、終戦後米軍が駐留していたころ、弾薬を積んで運んだからだとの説があります。それから交通量は増加し、交通事故も多く発生しました。そのため、月寒坂下から月寒市街地の部分の道幅を昭和三十三年（一九五八）年に拡張し舗装することになりました。当時豊平町役場があった場所（現「つきさつぷ中央公園」）には、拡張と舗装の完成を記念して建てられた記念碑があります。国道36号は、安政四年以来、道路の整備・改良を繰り返し、百四十年以上にわたり、まちの発展を支えています。



月寒中央通 9 丁目付近（昭和 8 年ごろ）



現在の国道36号（豊平 3 条 8 丁目）



国道36号拡張記念碑

本願寺道路

開拓当初、函館から札幌への道路が必要とされてきました。明治二（一八六九）年に、東本願寺が道路の開削を政府に請願し、明治三（一八七〇）年、平岸から定山溪、中山峠を経由して有珠までの道路（国道230号の前身）の開削が認められました。東本願寺は百人余りの開拓隊を北海道に派遣し、道路を切り開いたのです。この道路は本願寺道路と呼ばれ、明治四（一八七二）年に完成したといわれています。平岸二条一八丁目には、本願寺道路終点記念碑があります。



本願寺道路終点記念碑（平岸 2 条 18 丁目）

水源池通

水源池通は西岡水源池から北方に札幌大学、月寒体育館を経由して白石区の厚別通につながる道です。西岡は明治二十二（一八八九）年ころに月寒地区の一部として開拓が始まり、開拓者は、「シカ道」と呼ばれるシカの通り道

を利用していました。そのため、ずいぶん曲がりくねった道になっています。明治二十九（一八九六）年に月寒に設置された陸軍歩兵第二十五連隊に給水した月寒水道の維持管理のために利用され整備されました。水源池通は、開拓の初期から地域の重要な幹線道路として利用されてきました。



水源池通（西岡、昭和28年）



現在の水源池通（西岡 3 条 8 丁目付近）

国道36号

